

模擬試験活用ガイド ～高1生 7月進研模試編～

文責：理系専門 大学受験予備校 弘道塾
TEL：050-3199-1755



高校1年生の皆さん、7月の進研模試（総合学力テスト）の受験、大変お疲れ様でした。
高校生活が始まって数ヶ月。部活動や学校行事、そして毎日の早い授業に追われる中で迎えた、初めての「全国模試」だったと思います。

手応えがあった人も、思うような結果が出ずに少し不安を感じている人もいるでしょう。

しかし、ここで明確にお伝えしたいのは、「**高校最初の模試の結果は、これからの勉強のやり方次第で、いくらでもプラスに変えられる**」ということです。

このガイドは、模試の「点数や判定」に一喜一憂するのではなく、これからの高校生活における「学びの質」を劇的に高め、第一志望合格への揺るぎない土台を作るための「振り返り方」を具体的に解説したものです。ぜひ、これからの夏休みの学習計画に役立ててください。

1. 高校最初の全国模試結果をどう受け止めるか

① 高校受験は「地域大会」、大学受験は「全国大会」

中学時代の高校入試は、あくまで「栃木県内」という限られたライバルたちとの競争（地域大会）でした。下野模試などを指標にして、自分の位置を把握できていたことと思います。

しかし、高校生になって受験する「進研模試」は、全国の生徒が一斉に同じ問題に挑む、いわば「全国大会」へと舞台が変わります。

母集団の規模はもちろん、問題の難易度や問われる思考力の深さも、高校入試とは全く異なります。そのため、「中学時代の感覚」のまま模試に臨むと、予想以上の難しさに圧倒されてしまうのは、ごく自然なことなのです。

② 県立入試の仕組みがもたらす「数学・英語の隠れた課題」

多くの高校1年生が直面する大きな壁、それは「**主要科目の基礎体力の差**」です。

公立高校入試は5教科の合計点で判定されます。そのため、暗記によって比較的短期間で点数がまとまりやすい「理科や社会」で得点を稼ぎ、総合点で合格ラインに滑り込むというケースがそれなりに存在します。実際、地元のトップ校であっても、500点満点中300点前後の得点率で合格している層がいるのが実態です。

しかし、高校に入った途端にカリキュラムは一変します。

主要科目である「数学」や「英語」はそれぞれ専門化し、授業のスピードも中学の数倍になります。中学受験時に「**数学や英語を感覚やその場しのぎの丸暗記で乗り切ってしまった**」生徒は、高校の高速な授業の土台となる基礎がスカスカな状態のまま、次の難解な単元へと進むことになってしまいます。

③ 「学力の二極化」は、能力の差ではなく「学習法の適応力」の差

この「**主要科目の土台の差**」こそが、高校入学後わずか数ヶ月で進学校内に発生する、深刻な「**学力の二極化**」の原因です。

最初の全国模試で思うような点数が取れなかったからといって、「自分は勉強に向いていないのではないか」と落ち込む必要は全くありません。

問題の本質は、皆さんの「能力が足りない」ことではなく、「高校の進度と大学受験のレベルに、まだ**日々の勉強のやり方が適応できていないだけ**」なのです。

今回の模試は、これまでの「中学時代の勉強法」を脱ぎ捨て、より効率的で本質的な「大学受験用の勉強法」へと進化させるための、最高のスタート信号です。

2. 学校での「振り返りシート」の効果を120%に高める視点

- ・「提出するための作業」から「自分のための分析」へ

模試の受験後、多くの高校では「マイプランシート」や「振り返りシート」が配られ、目標点や反省点を書き込んで提出する指導が行われています。これは、自分の学習を客観的に見直す習慣をつける上で、極めて価値のある取り組みです。

しかし、毎日の課題や部活動で忙しい高1生にとって、このシートがいつの間にか「**先生に提出するために、空欄を埋めるだけの作業**」になってしまっていないでしょうか。

- ・「次はもっと計算ミスを減らす」
- ・「夏休みは毎日3時間勉強する」
- ・「英単語を毎日10個覚える」

このような抽象的な目標や反省を書くだけでは、残念ながら実際の学力向上には繋がりません。

高校の学習において、何より重要なのは「なぜその問題で立ち止まってしまったのかという『原因』の特定」と、「明日からどの教材のどのページを開くべきかという『具体的行動』の決定」です。

学校の振り返りシートを提出して満足するのではなく、一步踏み込んで「自分の弱点の本質」を見極めるための視点を、次の第3章で解説します。

3. 夏休みの取り組みを検証する、模試と実力テストの「2段活用法」

- ・7月模試の「成績表」と、夏休み明け実力テストの『結果』を突き合わせる
模試を成績向上に役立てるためには、**結果が届くのを待たずに動き出すことが重要**です。
 - ・模試を受けた直後にまず自分の手ごたえを記録し、夏の課題を設定する。
 - ・成績表が届いたら、手ごたえと実際の結果を照合して、夏の取り組みの方向を確認・修正する。
 - ・そして夏休み明けの実力テストで最終検証を行う。

この「3回書き込む」サイクルが、模試を本当の意味で活用するということです。

8月下旬に手元に届く個人成績表の得点や偏差値は、「7月上旬（夏休み前）」の実力を示したものです。当然、夏休みの間のあなたの努力や成長は、この成績表には全く反映されていません。

では、一体何を使って、夏休みの成果を「答え合わせ（検証）」すればよいのでしょうか。そこで登場するのが、**夏休み明けに学校で実施される「実力テスト（課題テスト）」**です。

夏の終わりには、①「夏休み前の課題を示す、7月模試の成績表」と、②「夏の成果を直接測る、夏休み明け実力テスト」という2つのデータが手元に揃います。この2つを突き合わせることで、本当の「答え合わせ」なのです。

① 数学：7月模試の「2次関数」は、夏休み明け実力テストで克服できたか？

7月模試の段階で多くの生徒が立ち止まり、成績表でも得点率が低く出ている「2次関数」。

もし、あなたがこの夏休みに「2次関数の基礎」を学校の宿題や参考書で復習したのなら、その成果は「夏休み明け実力テストの2次関数の問題」にしっかりと現れているはずです。

模試の成績表に書かれた「夏休み前の点数」と、「実力テストでの2次関数の手応え」を並べてみてください。もし解けるようになっていれば、あなたの夏の勉強法は正しかったということです。

しかし、もし実力テストでも再び同じような2次関数の問題で手が出なかったとしたら、それは夏の宿題が「提出するための単なる作業（答えの丸写し）」になっていたという危険信号。2学期の難関「三角比」に進む前に、今すぐ軌道修正が必要です。

② 英語：夏の間の「精読」の成果は、実力テストの英文で発揮されたか？

模試の成績表は、あなたの「夏休み前」の長文読解や文法力の不足を客観的に指摘してくれています。

この夏休み、単語の暗記だけでなく、1文1文の主語・動詞を意識した丁寧な読み方を訓練してきたならば、夏休み明けの実力テストの英文が、夏前よりもスムーズに、構造を持って頭に入ってきたはずです。

模試のデータ（過去）と、実力テストの手応え（現在）を比較して、あなたの「英文の読み方」が本当に高校生仕様にアップデートされたかを確認しましょう。

③ 国語：11月模試と「共通テスト」を見据えた読解力・古文文法の基礎

共通テストや数学の長い問題文を正確に整理する「論理的読解力」と、古文の文法。

これらも、夏休みの宿題への取り組み方次第で、夏休み明けの実力テストの点数にダイレクトに差が出ます。

模試の成績表で「古典文法」の得点率が低かったあなた。夏休み明けの実力テストでは、夏に覚えた助動詞や助詞の知識を使って、古文の読解ができましたか？

もし「実力テストでも呪文に見えた」のであれば、2学期の学校の授業がさらに難化する前に、古典文法の基本ルールを一度スッキリと整理し直すことをお勧めします。

「高1・7月進研模試 活用自己分析シート」

学校の振り返りシートをさらに深掘りし、「明日からの具体的な行動」に落とし込むためのシートです
各科目について、以下の項目を自分の手で書き出してみましょう。

【自己分析のステップ】

このシートは、模試を受けた直後と成績表が届いた後の2回に分けて記入します。結果が届くのを待つ必要はありません。まず今日、ステップ1・2を記入してください。

<模試直後に記入する>

1. 各大問の「手ごたえ」を記録する

- ・問題用紙と記憶が鮮明なうちに、各大問について「できた／たぶんできた／手がつかなかった」を書き出します。

2. つまずきの原因を「3つのタイプ」に分類する

- ・タイプA（理解不足）：「解答の解説を読んでも、なぜその式になるのか、なぜその訳になるのか分からない」
- ・タイプB（定着不足）：「解説を読めば『あ、そうだった』と分かるが、試験時間中には思い出せなかった」
- ・タイプC（スピード不足）：「じっくり考えれば解けたはずだが、時間が足りなくて手をつけられなかった」

3. 「この夏、毎日取り組む具体的な1冊と1単元」を決める

<成績表が届いたら記入する>

4. 「手ごたえ」と「実際の得点率」を照合する

- ・ステップ1で記録した手ごたえと、成績表の大問別得点率を並べてください。
「できたと思ったのに得点率が低い大問」は、理解したつもりで定着していない危険な箇所です。
夏の課題にステップ3で書いた内容で対応できているか確認し、必要があれば修正してください。
「手がつかなかったが平均得点率も低い大問」は、多くの受験生が同じ壁にぶつかっている箇所です
ここを夏に克服できれば、秋以降に大きな差がつきます。

◆7月進研模試 自己分析シート◆

志望校設定

第一志望 (上が国公立、下が私立)		第一志望に対して偏差値が3～5	
		上の大学	下の大学
	→		
	→		

※私立志望の人は下段に第二志望を入れて活用しましょう

夏に向けてやるべきことを次ページのシートに記入しよう

数学	【模試直後に記入】 ・最も手ごたえが悪かった大問（分野）：[] ・そのつまずきはどのタイプ？（○をつけてください） 【タイプA（解説を読んでも理解できない）】 【タイプB（思い出せなかった・ケアレスミス）】 【タイプC（時間が足りなかった）】 ・数学を克服するために、この夏「毎日取り組む教材と単元」： - 教材名： [] - 対象単元：[] （例：数Ⅰの2次関数の最大・最小） 【成績表が届いたら記入】 ・今回の得点 / 偏差値 / GTZ: [点 / 偏差値： / GTZ：] ・最も得点率が低かった大問（分野）：[] ・上の「手ごたえ」と一致していたか？：【一致 / ずれがあった】 ・ずれがあった場合、夏の課題を修正する必要があるか： 【このまま継続 / 修正する → 修正内容： 】 【夏休み明け実力テスト後に記入】 ★この弱点は解けるようになっていましたか？ 【はい（勉強の成果が出た！） / いいえ（解き方の本質がまだ身についていないかも）】 2学期の授業を乗り切り、次の模試に向けて、今月から取り組む教材と単元： - 教材名： [] - 対象単元：[]
英語	【模試直後に記入】 ・最も手ごたえが悪かった大問（分野）：[] ・そのつまずきはどのタイプ？（○をつけてください） 【タイプA（文の構造が分からず、訳を読んでも納得できない）】 【タイプB（単語や文法規則の度忘れ、基本ミス）】 【タイプC（読むのが遅く、最後の長文までたどり着かなかった）】 ・英語を克服するために、この夏「毎日取り組む教材と単元」： - 教材名： [] - 対象単元：[] （例：教科書の長文3つを、SとVをペンで色分けして精読する） 【成績表が届いたら記入】 ・今回の得点 / 偏差値 / GTZ: [点 / 偏差値： / GTZ：] ・最も得点率が低かった大問（文法/長文/リスニングなど）：[] ・上の「手ごたえ」と一致していたか？：【一致 / ずれがあった】 ・ずれがあった場合、夏の課題を修正する必要があるか： 【このまま継続 / 修正する → 修正内容： 】

英語	【夏休み明け実力テスト後に記入】 ★この弱点は解けるようになっていましたか？ 【はい（勉強の成果が出た！） / いいえ（解き方の本質がまだ身についていないかも）】 2 学期の授業を乗り切り、次の模試に向けて、今月から取り組む教材と単元: 教材名： [] 対象単元： []
国語	【模試直後に記入】 ・最も手ごたえが悪かった大問（分野）： [] ・そのつまづきはどのタイプ？（○をつけてください） 【タイプ A（古文の訳が分からない / 現代文の選択肢の根拠が分からない）】 【タイプ B（古典文法のルールや、漢字・語彙を忘れていた）】 【タイプ C（現代文の読解に時間がかかり、古文・漢文を解く時間がなかった）】 ・国語を克服するために、この夏「毎日取り組む教材と単元」： 教材名： [] 対象単元： [] （例：古典文法の助動詞の接続・意味をルーズリーフにまとめる） 【成績表が届いたら記入】 ・今回の得点 / 偏差値 / GTZ: [点 / 偏差値： / GTZ：] ・最も得点率が低かった大問（現代文/古文/漢文）： [] ・上の「手ごたえ」と一致していたか？：【一致 / ずれがあった】 ・ずれがあった場合、夏の課題を修正する必要があるか： 【このまま継続 / 修正する → 修正内容： 】 【夏休み明け実力テスト後に記入】 ★この弱点は解けるようになっていましたか？ 【はい（勉強の成果が出た！） / いいえ（解き方の本質がまだ身についていないかも）】 2 学期の授業を乗り切り、次の模試に向けて、今月から取り組む教材と単元: 教材名： [] 対象単元： []

おわりに

高校 1 年生の夏休みは、部活動も本格化し、あっという間に過ぎ去ってしまいます。

しかし、この「最初の夏」に自分自身の模試の結果と向き合い、「ただ課題を提出するだけ」の勉強から、「自分の弱点を一つずつ丁寧に埋めていく」勉強へとシフトできた生徒は、**秋以降の授業の理解度が劇的に変わります。**

2 学期の夏休み明け実力テストで、良い点数を取れる事を祈っています。

こんな悩みを抱えていませんか？

- ✓ 勉強はやっているけど成績が伸びない・・・
- ✓ 自分に合った勉強法が知りたい・・・
- ✓ 勉強の計画だけでなく実行までサポートして欲しい・・・



その悩み、大学受験のプロである弘道塾にお任せください!!

【弘道塾の3つの特長】

1. プロによるマンツーマン直接指導

元大手予備校校長の塾長が、数学・物理・化学を個別に直接指導。

当塾は実力不問、一人ひとりの状況に合わせたスタートで、効率よく実力を伸ばします。

2. 将来を見据えた進路指導

単なる偏差値評価ではなく、生徒が将来やりたいことを見据え、医学・理・工・農・薬学部など、様々な「いきたい大学」への合格を全力でサポートします。

3. 集中できる安心・快適な環境

明るく開放的な自習専用のスペースいつでも気軽に質問・相談が可能です。駅から徒歩8分の好立地で、安全面も心配ありません。



【さらに充実のサポート】

- ✓ 教室見学は随時受付けております。
(保護者様もご同伴いただけます)
- ✓ 合格体験記を Instagram にて公開中
→ @oyama.kodojuku
- ✓ 進路相談に特に強み
(医学部・薬学部志望の方も多数相談)

【住所・連絡先】

住所 栃木県小山市駅東通り 1-7-22 海老沼ビル 2F

電話 050-3199-1755

メール kodojuku.master@gmail.com

アクセス JR 小山駅東口から徒歩8分